

令和7年度「ちばっ子の学び変革」推進事業
研究状況報告書

自ら考えながら学びに向かう児童の育成 (算数科)



いすみ市立長者小学校

〈学校教育目標〉

ふるさとを愛し、かしこく やさしく たくましい長者っ子の育成

〈めざす児童像〉

- 自ら考え、表現できる子
- 自他を認め、尊重し、助け合える子
- 自ら進んで取り組み、最後までがんばる子
- 健康・安全に関心を持ち、進んで体力づくりに励む子
- 目標をもち、学び続ける子
- ふるさとを愛し、学校を愛する子

・児童数 110名

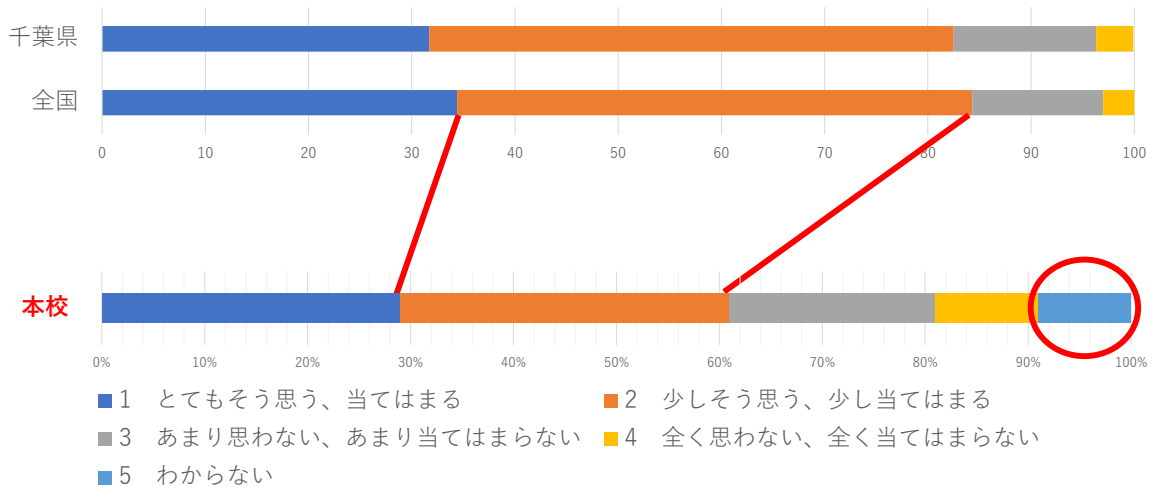
・学級数 全8学級(各学年1クラス特支2クラス)



1. 実態
2. 研究について
3. 実践
4. 成果と課題

Ⅰ. 実態 児童の実態

意識調査 自分にあった学び方、教材、学習時間になっていますか。

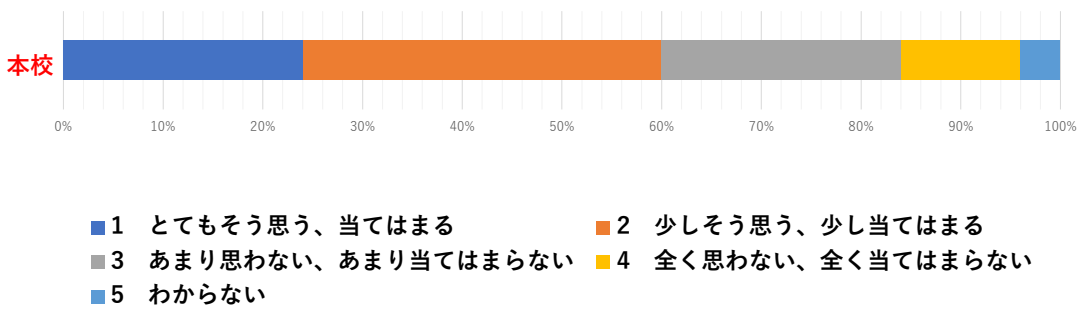


令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果によると、「自分にあった学び方、教材、学習時間などになっている」と回答した児童は、教科に関する調査の平均正答率が高くなる傾向があるとのこと。

そこで、本校の全校児童に調査を行いました。その結果、全国や県の平均と比べ、肯定的な回答が低く、自分にあっていないか「わからない」と答える児童も数名見られました。

Ⅰ. 実態 児童の実態

意識調査 わからないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。



また、「わからないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」という質問に対しても、全国や県と比べ、肯定的な児童は少ない結果となりました。

2. 研究について

研究目標

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して、自ら考えながら学びに向かう児童の育成を図る。（算数科）

研究目標は「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して、自ら考えながら学びに向かう児童の育成を図る」としました。

2. 研究について

研究仮説

単元指導計画の中に「くすのきタイム」を位置付け、児童自らが学び合いの場や取り組む問題を選択することで、主体的に学習に取り組むことができるであろう。

学習計画表を活用し、見通しをもって学習に取り組ませることで、教師は児童の学びの様子を見取り、個別の支援や授業づくりに生かし、児童は計画・調整しながら学びに向かうことができるであろう。

この目標を受け、仮説を2つ立てました。

1つ目は、「単元指導計画の中に「くすのきタイム」を位置付け、児童自らが学び合いの場や取り組む問題を選択することで、主体的に学習に取り組むことができるであろう。」

2つ目は、「学習計画表を活用し、見通しをもって学習に取り組ませることで、教師は児童の学びの様子を見取り、個別の支援や授業づくりに生かし、児童は計画・調整しながら学びに向かうことができるであろう」と設定しました。

2. 研究について

仮説①くすのきタイムとは



- ①数字をかえて
- ②数のご数をかえて
- ③場面をかえて
- ④レベルアップさせて

具体的な手立ての1つ目は、「くすのきタイムの位置付け」です。

くすのきタイムとは、自分に合った学び方で学習する時間のことを指し、学習形態を一人で・友達と・先生との中から児童が自由を選択をします。わからないから聞いてみよう、できそうだからやってみようとなった場合、途中で変更も可能とし、自由に意見を交流し、席を移動して学習することも可能とします。

また、学ぶ内容も、難易度別の問題やタブレット、問題づくりにチャレンジも自由選べるようにします。右の掲示物は、黒板に掲示し、問題作りをする際に参考にします。

2. 研究について

仮説①くすのきタイムとは

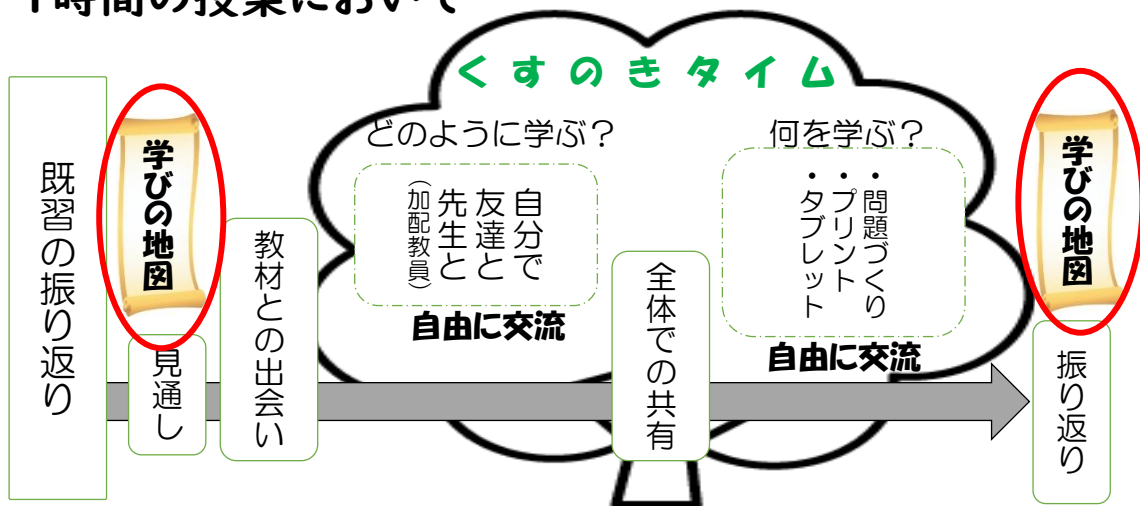
時間	学習活動	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	・余りのあるわり算について調べるといふ単元の課題をつかむ。 ・包含除で余りのあるわり算の意味を理解する。	○知① (発言・ノート)	○思① (発言・ノート)	
2	・わり算の意味に着目し、余りはいつもわる数より小さくなることを理解する。	○知② (ノート)		
3	・等分除で余りのあるわり算の意味を理解する。	○知② (発言・ノート)		
4	・余りのあるわり算の答えの確かめ方を理解する。		○思② (発言・ノート)	○態① (観察・ノート)
5	くすのきタイム ・学習内容を確実に身につける。	○知①② (発言・ノート)		
6	・問題場面に合わせて余りの処理の仕方を考え、余りを切り上げて処理する。		○思② (発言・ノート)	○態② (発言・ノート)
7	・問題場面に合わせて余りの処理の仕方を考え、余りを切り捨てて処理する。		○思② (発言・ノート)	○態② (発言・ノート)
8	くすのきタイム ・学習内容の理解を確認する。	○知② (発言・ノート)	○思② (ノート)	

では、そのくすのきタイムをどのようにしているかという点、単元計画は、5時間目8時間目のように1時間全部をくすのきタイムとし、学習内容の理解を確認したり、3、6、7時間目のように1時間の中でくすのきタイムを設けることもあります。

2. 研究について

仮説①くすのきタイムとは

1時間の授業において



また、1時間の授業においては、従来の自力解決、比較検討の学習展開ではなく、児童の学習進度に応じて自由に交流を行い、状況に応じて共有を図る、児童が主語となる学習時間とします。

ここで、活用しているのが、仮説②学習計画表です。学びの地図と呼び、毎時間の初めと終わりに活用します。

2. 研究について

仮説②学習計画表「学びの地図」とは

学びの地図

			3	11/13	<p>方眼を使って、図形の拡大図・縮図をかく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教P1442 ・プリント ・問題づくり ・タブレット学習 	<p>拡大図は2倍して書いてよいことが分かった。友達と答えを比べて楽しかった。縮図は1/2倍して書いてよいことが分かった。大きい倍の数をやりたい。</p>	<p>プリントを早く終わらすことができた。友達と答えを比べて楽しかった。縮図は1/2倍して書いてよいことが分かった。大きい倍の数をやりたい。</p> <p>たくさん問題に取り組んでいてナイス!</p>
			4	11/14	<p>方眼を使わず、三角形の拡大図・縮図のかき方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教P1452 ・プリント ・問題づくり ・タブレット学習 	<p>方眼を使わずに図を書くのは5年生の時から勉強につなげる事だと思った。倍にするのが大きかった。図を大きく書くのが楽しかった。角を正しく書くのを頑張った。辺を倍すれば図が倍する事を知った。次は違う形でやりたい。</p>	<p>教科書問題を早く終わらせることができた。友達と答えを比べて楽しかった。縮図は1/2倍して書いてよいことが分かった。大きい倍の数をやりたい。</p> <p>友達と問題を出し合っていましたね!</p>
2	10/27	<p>スマイルドリル</p> <p>ブロックをつかって7+4のけいさんのしかたをかんがえる。</p> <p>けいさんのしかたをことばでせつめいする。</p> <p>きょうかしょ P63</p> <p>きょうかしょ P63</p> <p>きょうかしょ P63</p> <p>9にいろいろはかずをたす。</p>	<p>7+4のしきをさいしに10をかけるをするのをわかった。</p>	<p>ひとりて</p> <p>ともだちと</p> <p>せんせいと</p> <p>10E x けいさん</p>			

授業の導入時やくすのきタイムの初めと終わりに使用します。学びの地図を見ることで、本時の学習への見通しをもち、主体的に取り組めるのではないかと考えました。また、本時までの学び方を振り返ることで、学び方を選択しやすくなるのではないかと考えました。また、教師は、児童一人一人の学びの様子を見取り、支援や授業改善に生かせるようにしました。記入欄は学年に応じて異なりますが、全校で活用しています。上の学びの地図は、6年生がタブレットで作成したものです。単元の初めに児童が話し合いながら作成をしました。

3. 実践

①第3学年「あまりのあるわり算」



初めに、3年生の実践です。

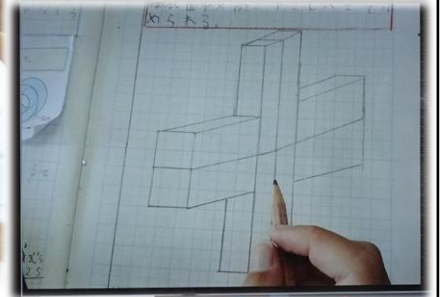
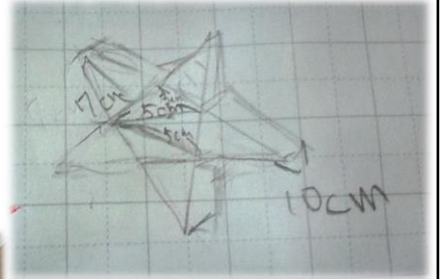
「あまりのあるわり算」の学習では、余りの処理はどのようにするのか前時との違いをもとに考える授業展開を行いました。

加配教員は、少人数指導として各学年に入って授業を行っています。

学習形態の場を授業初めに分けて行い、それぞれの場で主体的に取り組む児童が見られましたが、学習形態が固定となってしまう、自由に交流することに課題が残りました。

3. 実践

②第6学年「立体の体積」

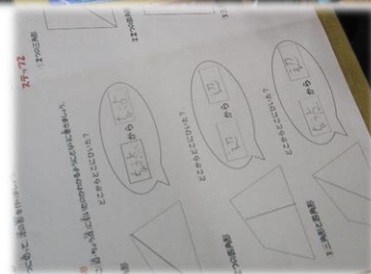


6年生では、児童自身で学習計画をたてました。それにより、児童は見通しをもって学習に取り組むことができました。また、問題づくりにも取り組み、星型や十字型を作図する児童も見られました。

ここで課題となったのが、自分に合っていない学習形態で学んでいたり、自分から教えてほしいとお願いしに行くことに抵抗がある児童、これまでの学習スタイルだった自席で授業に取り組むことを脱却させるにはどうしたらよいかということです。

3. 実践

③第2学年「三角形と四角形」



続いて行ったのが、2年生の「三角形と四角形」です。

学習内容を精査し、くすのきタイムで取り組む学習内容を難易度別にしました。また、児童同士で答え合わせをし、「辺と頂点を通っているから三角形だ」と数学的な見方、考え方で意見を交流できるようにしました。友達と取り組む児童の中には、話し合うことなく一人で取り組んでいる児童も見られ、誰かと取り組む安心感も大切だが、学び合いができるようにしたいと課題が残る結果となりました。

3. 実践

④第5学年「面積」



5年生では、より自由に学習形態や学習内容を選べるように、場の工夫を行いました。パネルにして問題提示をすることで、その場に集まって問題を解き、自由に教室内を移動して取り組む様子が見られました。

本時は台形の面積の公式を考える時間でしたが、くすのきタイムでは三角形2つの求め方で求積する児童が多く見られました。公式を導き出すために「三角形2つの面積を求めることは時間がかかる」「平行四辺形にして面積を求めた方が式が簡単だ」などと、意見交流、学び合いがあるとよかったと反省があがりました。

3. 実践

⑤すずかけ学級（知的）

5年「角柱と円柱」 6年「立体の体積」



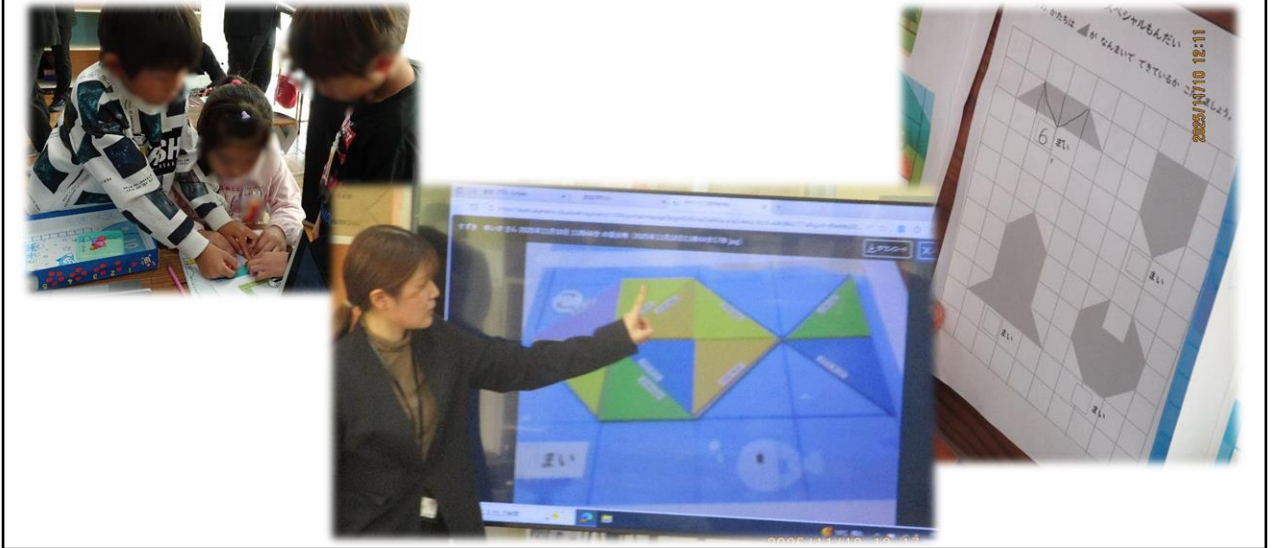
最後に、知的学級における実践です。

前時までの学習内容を黒板に掲示したり、具体物がすぐに確認したりできるようにし、タブレットやホワイトボード、電卓など、児童が何を使って問題を解こうか自由を選ぶように工夫しました。

少人数での展開は、モニターや教具を自由に用いて学習に取り組むことができたことから、通常学級においても工夫次第では自由に場を変え教具、教材を選べるようにできるのではないかと考えました。

3. 実践

11月10日 研究授業 ⑥第1学年「かたちづくり」



検証授業については、1年生と4年生で実施しました。

1年生では、ワークシートに色板を並べながら解けるように作成し、児童が夢中になり取り組む様子が見られました。出来上がった形をタブレットで撮影、提出することで、全体で共有したり、友達の並べ方と比べたりすることができました。

実際の色板と大きさの異なるチャレンジ問題では、解き方が分からず苦戦する様子を担任が見取り、次の時間に取り組むように変更しました。

3. 実践

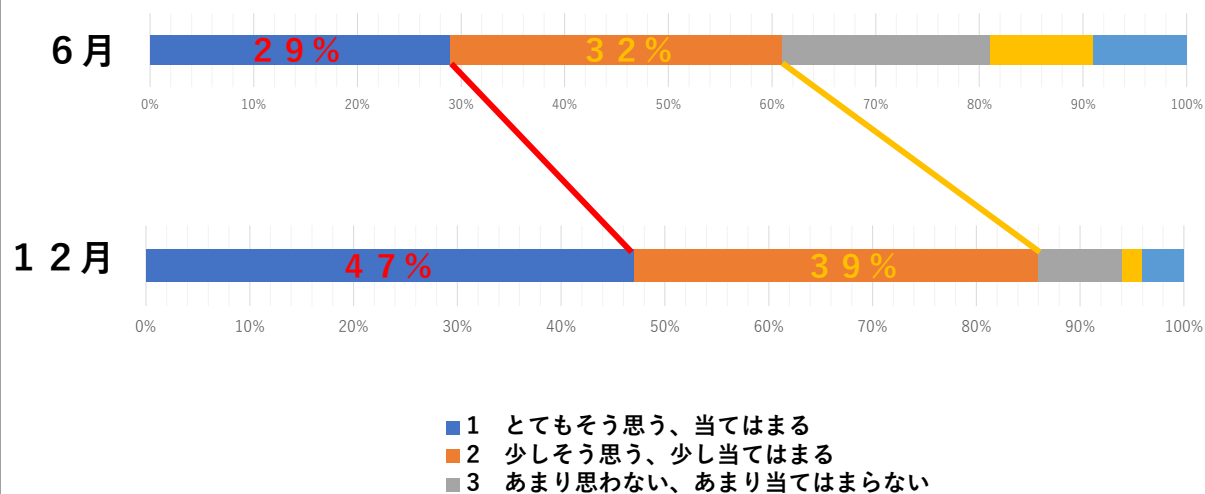
11月10日 研究授業 ⑦第4学年「面積」



4年生では、L字型の面積の求め方を考えました。友達と取り組んだ児童には、周囲の長さを計算する様子も見られましたが、友達からの声掛けで正しく求め直すことができました。そして、振り返りでは、「友達と取り組んだからよく分かった」と話す様子も見られました。モニターやパネルを見て、友達と相談したり先生に教わったりするなど、自由に交流する様子が見られました。

4. 成果と課題 意識の変容

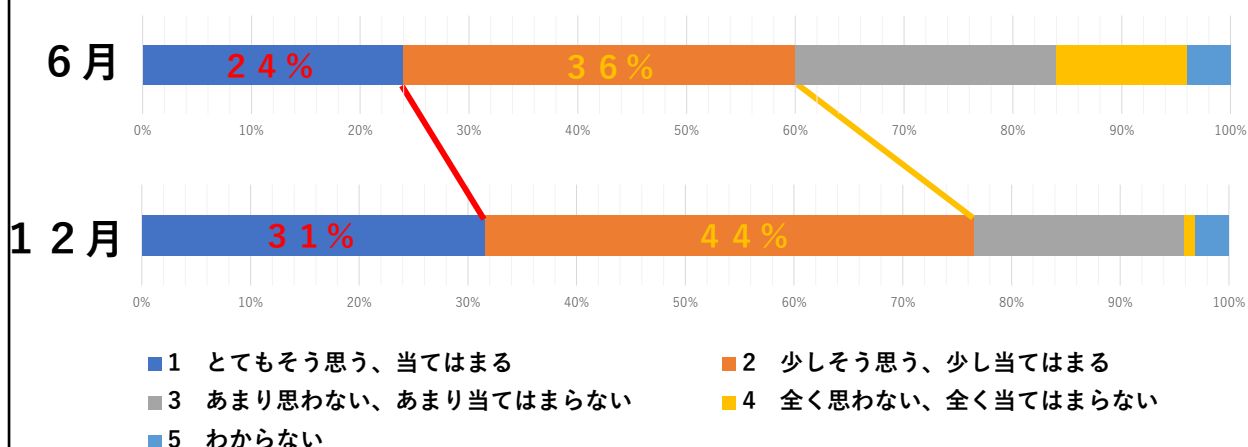
調査項目 自分にあった学び方、教材、学習時間になっていますか。



研究実践を終え、12月に再度全校児童に意識調査を行ったところ、「自分にあった学び方、教材、学習時間になっていますか。」という問いに対して、「とてもそう思う」と答えた児童の割合が29%から47%に、肯定的な回答が61%から86%に変容が見られました。

4. 成果と課題 意識の変容

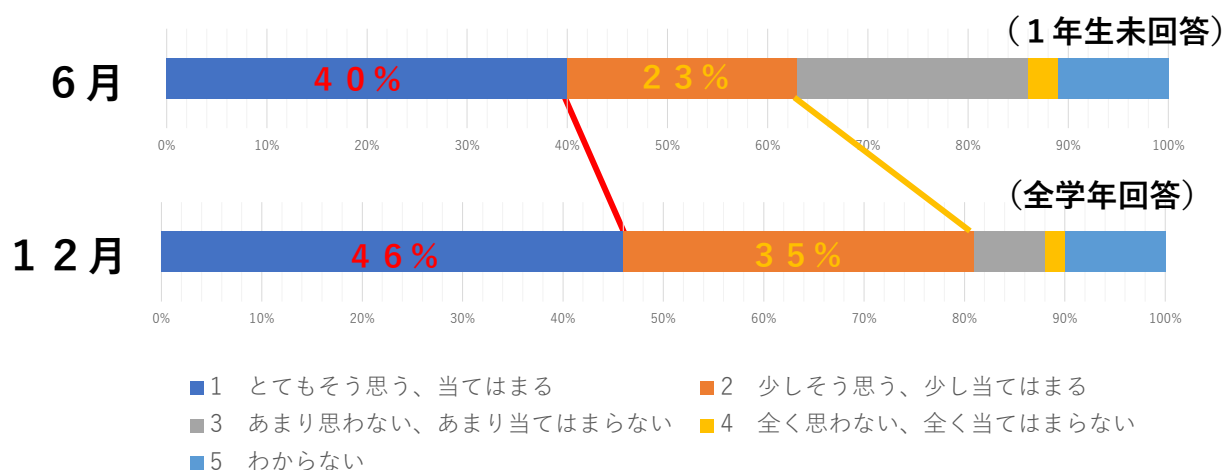
調査項目 わからないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。



また、「わからないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」という質問に対しても、肯定的な回答が60%から75%に向上しました。

4. 成果と課題 意識の変容

調査項目 タブレットを使うと、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなりますか。



タブレットのデジタル教材を用いて考えたり、自身のノートを撮影し、全体で共有する活動を多く取り入れたりしたことで、共有したり比べたりしやすくなったと答える児童の割合に向上が見られました。

4. 成果と課題

成果

- 「くすのきタイム」の取組によって、自分に合った学び方で学ぶ授業スタイルを全校で統一し、主体的に取り組む児童が増えた。
- ICTを活用し、児童同士がノートなどに書いた自分の考えを共有したり、友達の意見を参考にしたりすることができた。

以上の変容も踏まえた成果と課題です。

1つ目の成果は、くすのきタイムの取組により、自分に合った学び方を理解することができ、主体的に取り組める児童が増えたことです。算数に限らず、くすのきタイムのように自由に交流をしたり、自分の学習しやすい形態を選んだりすることで学びやすい学習環境になりました。

2つ目として、ICTを活用し、児童同士がノートなどに書いた自分の考えを共有したり、友達の意見を参考にしたりすることができました。また、タブレット学習にも取り組めるように教師が教材を複数用意することで、児童が主体的にタブレット学習にも取り組むことができました。

4. 成果と課題

課題

△実態に合っていない学習形態を選ぶ児童や、分からないときに学習形態を変え、友達や先生に聞きに行くことができない児童が見られた。

→「くすのきタイム」の取り組ませ方の改善

→「学びの地図」の再検討

△問題を難易度別、問題づくりと複数用意したが、問題数が増え、難易度が上がったように感じ、達成感を味わえない児童が見られた。

→達成感を味わいながら主体的に取り組める手立て

今年度研究を行った課題です。

1つ目に、くすのきタイムでは、学習形態を自由に選択できるようにしてきましたが、授業実践を行った結果、実態に合う学習形態を選べていない児童が見られたことです。次第に、自分に合った学習形態を選べる児童が出てきたり、教師が助言して、形態を変える児童も見られましたが、児童自身が「どの程度自分が分かっているから、ここで学ぼう」と理由付けができるようにさせたいと思います。また、高学年では、友達や先生に聞きに行くことができず、分からないままにしてしまう児童も見られました。皆がくすのきタイムで、自分に合った学び方で「分かった」になれるように、取り組ませ方を改善していく必要があると感じました。

そして、仮説の2つ目の学習計画表「学びの地図」では、児童が学習を計画、調整することが思うようにできませんでした。児童の学びの様子を見て、教師は支援したり、次時の学習内容を変更したりすることができましたが、計画表ではなく、学習進度や理解度を見取れるように変更していく必要があるように感じました。

また、くすのきタイムでは、児童が主体的に取り組めるよう複数の問題を用意し、楽しく取り組めるように授業展開をしてきましたが、児童にとっては難易度が上がった、問題数が増えたと感じ、達成感を味わえない児童が見られました。そこで、児童が理解度に応じて学習内容を選び、達成感を味わえるような学習展開に改善していきたいと考えました。